

宮古市への観光意識調査と学生によるモデルコース検討

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：震災後の多様なニーズに沿える観光モデルコースの設定

研究代表者：宮古短期大学部 教授 大志田憲

課題提案者：一般社団法人宮古観光文化交流協会 会長・澤田克司

研究メンバー：高岩将洋（宮古観光文化交流協会） 宮井久男（岩手県立大学名誉教授）

・キーワード：観光、沿岸地域、ニーズ調査、モデルコース

▼研究の概要（背景・目標）

宮古市等沿岸への観光客数は、震災以降回復傾向ではあるが、まだまだ厳しい状況である。また、観光旅行形態が団体から個人・小グループへと変化していることや、宮古市を取り巻く交通環境の変化も踏まえ、これからの若い世代も含めた幅広い世代のニーズを調査する必要がある。さらに、その調査結果をもとに若い世代である本学学生による観光ルート、テーマの検討を行う。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 宮古市の観光状況、課題の情報共有（8月）

2. アンケート調査

調査対象：一般および高校生

調査内容：宮古地域、観光に関する意識

調査期間：10月

3. アンケート結果の分析（10～11月）

4. 結果をもとにした現地調査

新型コロナウイルス感染症拡大により未実施

5. アンケート、現地調査をもとにした

観光ルート検討（2月）

※現地調査ができなかったため資料のみで実施

・アンケート集計数

【高校生】

沿岸部（岩手県立山田、宮古商工高等学校） 448名

内陸部（岩手県立盛岡商業、不来方高等学校） 145名

【一般】以下のイベントにて収集

宮古市浄土ヶ浜まつり、八幡平市山賊まつり 271名

▼研究の成果（結論・考察）



協会との研修（8月）



アンケート調査（10月）



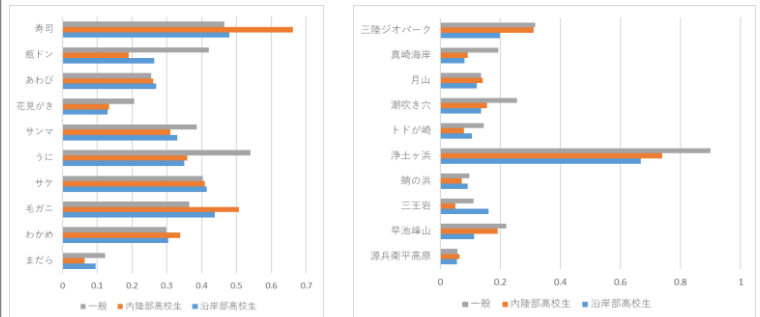
●アンケート結果の一部

・観光旅行先を決める際に重視するもの

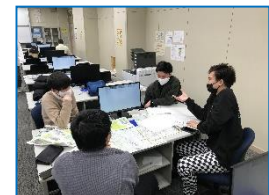
【高校生】 食べ物・飲食店、宿泊施設、費用等の適切さ
内陸部は自然景観が高く、沿岸部は交通の便が高い傾向

【一般】 食べ物・飲食店、自然景観、宿泊施設
30代は子供と旅行する割合が高く、レジャー施設も上位

・興味があるもの（食、自然）



食の興味について、若い世代と比較し差異が見られるものもある。



学生グループワークによる観光ルート、テーマ検討（2月）

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

・アンケート結果から、観光、特に宮古地域に対する世代間でのニーズの差異を確認することができた。

・観光モデルコース検討については、新型コロナウイルス感染症拡大により、学生の実施調査ができなかったため、今後引き続き検討をすすめていく。

【謝辞】

アンケート調査にご協力いただきました一般社団法人八幡平市観光協会並びに県内各高等学校に感謝申し上げます。